臼井　通彦　先生

略歴

1999年 3 月　東京医科歯科大学卒業
2003年 3 月　東京医科歯科大学大学院修了（歯周病学講座）（歯学博士）
2003年 4 月　日本学術振興会特別研究員（東京医科歯科大学口腔再生医学講座）
2005年 4 月　University of Rochester Medical Center ポストドクトラルフェロー（病理学講座）
2007年 4 月　昭和大学歯学部歯周病学講座　助教
2012年 4 月　九州歯科大学歯学部歯周病学分野　助教
　　昭和大学歯学部歯周病学講座　兼任講師
2013年 4 月　九州歯科大学歯学部歯周病学分野　准教授
　　日本歯周病学会　専門医　評議員
　　日本歯科保存学会　専門医　評議員
　　歯科基礎医学会　評議員

新規BANA分解酵素検出キット・ADCHECK（アドチェック）の活用法

九州歯科大学口腔機能学講座歯周病学分野
臼井　通彦

超高齢化社会を迎えた日本において，寿命100年時代という言葉が現実のものとなりつつある。その一方で，平均寿命と健康寿命との差が問題視され，健康寿命の延伸は社会的な課題である。歯周病と全身の疾患との関連性が明らかになっていく中で，高齢者の残存歯を増加させフレイルを防ぐのみならず，慢性微小炎症を制御する歯周病治療の意義は年々深まっているように思われる。

歯周病による歯周組織破壊は歯周病原細菌の感染によって生じる。歯周病原菌は，リアルタイムPCR法によって，感度良く定量的に検出することが可能であるが，検出結果を得るために時間を要することや費用が高額であることから，一般には普及していないのが現状である。歯周病の病態進行に深く関与する*Porphyromonas gingivalis*（P.g），*Tannerella forsythia*（T.f），*Treponema denticola*（T.d）の3菌種はレッドコンプレックスと呼ばれ，N-ベンゾイル-DL-アルギニルペプチターゼ（BANA分解酵素）を産生する。この酵素活性を呈色反応にて測定することで，レッドコンプレックスを構成する3菌種を検出することができる。今回，紹介するADCHECK（アドチェック）は，この原理を利用した新規のBANA分解酵素検出キットで，チェアサイドにて，短時間で，簡易に歯周病原菌の有無を測定することができる。また，従来の製品とは異なり，検出するために特別な機器も必要とせず，1つのキットのみで検出作業を行うことができ，歯周治療において使用価値の高い検査方法であると言える。歯周病原菌やその酵素・毒素は全身疾患への関連も指摘されており，今後，診療の中での細菌検査の重要性も増していくものと思われる。本セミナーでは，ADCHECK（アドチェック）の原理やその使用方法を中心に説明したい。